

都市再生整備計画事業 事後評価シート

氷見地区

平成29年3月

富山県氷見市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	富山県		市町村名	氷見市		地区名	氷見地区			面積	350 ha			
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	1,040百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名											
			道路(地方道整備:11路線)、地域生活基盤施設(情報板、案内板、北大町広場、駅前広場、ポケットパーク)、高質空間形成施設(公共トイレ、道路照明)											
		提案事業	地域創造支援事業(展望台、温泉掘削、足湯施設、朝日丘グラウンド、漫画キャラクターモニュメント設置事業)、事業活用調査(効果分析)											
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			-				-			-				
		提案事業	-				-			-				
			新たに追加し た事業	基幹事業	①地域生活基盤施設(駅北広場、駅北緑地、自転車駐車場) ②既存建造物活用事業(高次都市施設)				①漁村文化を感じる氷見市の玄関口の整備と駅周辺の交通の円滑化及び利用者の安全確保 ②氷見の漁村文化を再認識し、地域に根ざした文化の保存・継承をする交流施設の整備			周辺施設の整備により、指標及び数値目標に関連すると考え得るが、本事業単独での影響はない		
	提案事業	-				-			-					
	交付期間 の変更	当 初	-		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		-							
		変 更	-											
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値					
	指標1	地区内人口の減少数	人/年	-161	H21	-110	H27	-	-241	×	あり なし	●	全国的な傾向である人口減少に加え、駅前広場、ポケットパークなどの歩行者や居住者を主体とした整備の遅延などから、「まちなか」の魅力アップに効果が表れにくかったと考えられる。	平成29年4月末
	指標2	来街観光客数	人/日	2,079	H21	2,850	H27	-	3,391	○	あり なし		新たな集客施設である「総湯」「ひみ番屋街」が建設され、まちの集客拠点の強化がなされたことが、来街観光客数の増加につながったものと考えられる。	平成29年4月末
	指標3	湊川リバーウォークの歩行者数	人/年	48,500	H21	49,000	H27	-	52,400	○	あり なし		歩行空間の確保や歩行環境の向上などのハード整備事業が実施されたことや、「総湯」「ひみ番屋街」が建設され、集客拠点の強化がなされたことが、歩行者数の増加につながったと考えられる。	平成29年4月末
	指標4	地区内イベント参加者数	人/年	178,016	H21	176,000	H27	-	168,971	△	あり なし	●	新規開催「ひみ永久グルメ博」や藤子不二雄®氏関連のイベントに多くの参加者が見られるものの、目標値にわずかに達しなかった。今後、駅前広場整備の効果浸透やポケットパークなどの整備が進めば、目標値は達成されると想定し、「△」と評価した。	平成29年4月末
	指標5	漁村文化に関する学習会・研修会の開催数	回/年	11	H24	30	H27	-	35	○	あり なし		旧海鮮館をリニューアルして建設された漁業交流館「魚々座」において、文化交流関係のイベント・会議が定期的に開催されたためだと考えられる。	-
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	-	-	-	-			-	-			-	-	
	その他の数値指標2	-	-	-	-			-	-			-	-	
その他の数値指標3	-	-	-	-			-	-			-	-		
4)定性的な効果 発現状況	藤子不二雄®氏関連のイベントや従来からの行事を継続的に実施しており、かつ「総湯」や「ひみ番屋街」といった集客施設が整備されたことから、まちの集客拠点が強化され、特に休日のまちなかの人々の賑わいが増加していることが確認される。													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			
	住民参加 プロセス		氷見駅周辺整備における座談会や公聴会の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● ・今後も随時、市民をはじめとする関係者の意見を聴取し、施設管理に努める。			
							都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
持続的なまちづくり 体制の構築		「合同会社まちづくり氷見」の活動状況について確認する				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● ・平成28年3月に「合同会社まちづくり氷見」は解散した。 ・指定管理者の交代により、その役目を民間事業者へ引き継いだ。				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

氷見地区(富山県氷見市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：観光客と住民が行き交うまちなかづくり 目標1 観光資源を結ぶ歩行者ネットワークの形成や案内板整備を継続し、中心市街地での回遊性を高め、来訪者による賑わいのある街の形成を目指す。 目標2 食都ひみ、祭りや漫画などの氷見市の資源を活用し、交流拠点施設や休憩施設等の整備による賑わい空間等を形成し、300万人交流を目指す。 目標3 学校や市民会館などを連絡する道路を整備し、生活環境向上を目指すとともに、人的交流を支援し、中心市街地の賑わいのある街を目指す。 目標4 集客観光施設や交流拠点施設を通して、氷見の食文化や古くから受け継がれてきた漁村文化を再認識し、地域に根ざした文化の保存・継承を目指す。		地区内人口の減少数	単位：人/年	-161	H21	-110	H27	-241	H28
		来街観光客数	単位：人/日	2,079	H21	2,850	H27	3,391	H28
		湊川リバーウォークの歩行者数	単位：人/年	48,500	H21	49,000	H27	52,400	H28
		地区内イベント参加者数	単位：人/年	178,016	H21	176,000	H27	168,971	H27
		漁村文化に関する学習会・研修会の開催数	単位：回/年	11	H24	30	H27	35	H27
まちの課題の変化		・各種集客拠点の機能向上や連携により、地区全体の魅力を向上させ、中心市街地への来訪者増加につなげる必要がある。 ・駐車スペース不足、交通渋滞、路上駐車などの交通面の課題は、以前より解消されたものの、依然として残されている。 ・まちなかで滞在できるようなポケットパークや緑地の事業について、部分的に未完了のものがある。また、オープンカフェなどの取組みを積極的に行うことを希望する主体を支援する制度・システムの構築が必要である。 ・人口減少対策(ソフト事業)と連携した施策の展開が必要である。							
		(改善策：想定される事業) ①まちの集客拠点の維持・向上：個々の施設環境の維持に加え、地域住民参加を視野に入れたイベントなどを開催し、拠点のにぎわい向上を図る。 ②歩行環境および回遊性の向上：道路改良やバリアフリー化などによる歩行環境整備の促進、及び地域住民の参画による維持管理(歩道清掃・植栽管理など)の推進に努める。 ③住環境の向上及び気軽に滞在できる空間の創出：空き店舗・空き地の利活用に関する手続きの円滑化、及びこれに関連する規定・基準の見直しを行い、地区内の住環境および都市空間を向上させる。 ④各種集客拠点の連携：個々の拠点で閉じた活動の実施ではなく、拠点間で連携したイベントや活動などに取り組み、地区が一体となって魅力を向上させる。 ⑤住民・各種団体による主体的な取組みの支援：地区の拠点やまちなかの空間などを活用した、各主体の主体的な取組みを支援するシステムを構築する。 ⑥まちなかの回遊性を向上させる情報提供の仕組みの構築：来訪者が一つの拠点に集積するのではなく、市街地内のさまざまな拠点を回遊できるようにするため、さまざまな場所で情報発信できる仕組みを構築する。							

